

令和 2 年度 事業計画

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

1 基本方針

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また陶芸館や創作研修館、信楽産業展示館の3つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

今年度は県および甲賀市からの第3期指定管理の5年目にあたる。中期経営計画（第 期）を基に、国際的な情報発信の強化、魅力的な事業展開による誘客力の強化、地域産業の振興および地域の活性化に向けた取組の強化、ならびに次世代育成の取組の充実を重点的に取り組んでいく。

また、今年度は滋賀県立陶芸の森が平成2年6月に開設されて30周年を迎える。これまでの継続事業の充実とともに市民参加型を基本とした30周年事業を企画し、効率化・活性化された持続可能な財団運営を行う。

2 事業計画

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

太陽の広場や星の広場などで人々が自由に憩い楽しめるよう公園や施設を安全かつ清潔に保ち、芝と植栽の管理に努め、入園者に快適な空間とサービスを提供する。

また、本県の観光拠点として陶芸の森を広くアピールし、誘客促進に努める。

ア 公園の魅力の向上

(ア) 陶芸作品の野外展示

アーティスト・イン・レジデンス（以下「AIR」という。）事業において陶芸の森に滞在した陶芸家の創作作品を野外展示して、野外美術館として、自然の中で広く県民が芸術作品を鑑賞できる機会を提供する。

(イ) 公園の魅力発信

泉の広場周辺には、穴窯をはじめとする薪窯が7基あり、これらの窯の構造やその魅力を広く県内外の公園利用者に伝えるとともに、各種講座での活用を図る。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

(ア) しがらき学ノススメ

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるよう、技法別の講座や穴窯・登り窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げた体験講座を開催する。団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで集客を図る。

(イ) イベントの開催

軽スポーツ、野外ライブ、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。また、やきものをテーマにした展示即売会等を開催し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、陶芸に関する交流の場を提供する。

(2) 地元陶器産業の振興に関する事業

信楽焼陶器産業との連携を強化し、信楽焼の伝統技術を将来に継承するための人材育成事業を実施するとともに、産業後継者等を対象としたトークショーの開催やデザイン面からの支援を行う。また、信楽産業展示館を活用した信楽陶器産業の振興事業を行う。

ア 人材育成事業

信楽に培われたやきもの技術を次世代に継承し、その伝統を保存、普及するため、信楽高等学校への支援事業をさらに強化し、各学年に応じた実習などを行う。

イ デザインコンペ

陶芸館ミュージアムショップに設置する「カプセルトイ」の商品開発を目的に作品の公募を行う。デザインの優れたモデルについては、令和2年度から陶芸の森30周年を記念してミュージアムショップの「カプセルトイ」で実際に販売するほか、入選モデルを信楽産業展示館にて展示することで、デザイン啓発の一環とする。

ウ 陶芸の森開設30周年記念特別企画「対話の森」

令和2年度は、連続テレビ小説「スカーレット」の放映後でもあり、一般の参加者も視野に入れ、「食、アート、うつわ」をテーマに、当館館長がホスト役となりトークショーを開催する。参加者とも意見交換しながら、信楽焼の可能性などを考える機会とし、地域産業の振興に寄与する。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

(ア) 特別展「リサ・ラーソン - 創作と出会いをめぐる旅」展

令和2年4月1日(水)～5月31日(日) (令和元年度からの継続事業)

リサ・ラーソンは、北欧の陶芸デザインで魅力的な動物作品で幅広い人気を得ている。日本での第三弾となる回顧展では、スウェーデンで初のリサ・ラーソン展を開催したリアン・デザイン美術館の館長ルーヴェ・ヨンソン氏らが企画を担当する。本展覧会では、リサ・ラーソンが世界各地を旅しインスピレーションを受けたアメリカ前衛陶芸のパイオニアであるピーター・ヴォーコスや日本の濱田庄司、メキシコやアジアの民族芸術などを組み合わせて紹介する。リサ・ラーソンが制作のエネルギーとした様々な人々との出会いや作品を、彼女の作品から読み解きながら、彼女の芸術に迫る。

(イ) 特別企画「湖国・滋賀の陶芸 - 風土と伝統そして交流のなかで」展

令和2年6月13日(土)～9月22日(火・祝)

古来より風光明媚な景勝地として、多くの人々に親しまれてきた湖国・滋賀。びわ湖を抱くこの地の大地は良質の陶土を育み、豊かなやきもの文化をつくりだしてきた。今日ではそうした風土や伝統に魅せられ、信楽をはじめ各地で幅広い作り手が作陶活動を展開している。また、陶芸の森のレジデンス事業を通じた交流は、滋賀の陶芸に国際性と多様性をもたらしてきた。彼らは滋賀の風土と伝統そして交流のなかで、どのようなやきもの表現を探求しているのだろうか。この地を拠点に活動する作り手たちの取組を通して、現代の多彩な陶芸を展望する。

(ウ) 特別展「奇跡の土 - 信楽焼をめぐる三つの景色」展

令和2年10月3日(土)～12月13日(日)

信楽焼は13世紀に始まり、現在まで滋賀県甲賀市信楽町を中心とする地域で途切れることなく焼かれてきたやきものである。同じく中世の時代に起源をもつ瀬戸焼、常滑焼、越前焼、丹波焼、備前焼とともに「日本六古窯」として知られている。これら六つのやきものはそれぞれ土に特徴を持ち、地元の歴史と風土に育まれながら独自の作風をつくり上げてきた。

本展では、「日本六古窯と信楽焼の景色」「信楽焼とアメリカ陶芸」「信楽・焼締めの今」という三つのシーンから信楽焼を見つめるものである。

(I) 特別展「神業ニッポン 明治のやきもの - 幻の横浜焼・東京焼」展

令和3年3月20日(土)～3月31日(水) (令和3年度への継続事業)

1859年に横浜が開港して明治時代の幕が開けると、日本中から横浜や東京に集まった陶磁器業者が工房や店を設け、全国の産地から素地を取り寄せて絵付けや販売を行い「横浜焼・東京焼」が誕生する。華やかな装飾で精緻を極めた品々は万国博覧会などへの出品を期に、その優美かつ類稀なるデザインで外国人に人気を博すと、ジャポニスムブームを巻き起こし横浜港から大量に輸出された。

本展では、国内随一のコレクターである田邊哲人氏によって収集され、里帰りしたコレクションから精選した作品を中心に、日本に現存する優品約150件を一堂に紹介する。

(オ) 陶芸館ギャラリー企画

陶芸館ギャラリーは気軽に利用できる無料展示スペースとして、陶芸の森の役割や事業を理解してもらうための情報発信の場として活用してきた。特別展の関連展示や夏休み子ども企画展、新収蔵品展など、陶芸の森の独自性を示す展覧会を開催する。

イ 創作事業(AIR事業)

国内外から将来性のある若手作家をスタジオ・アーティスト(研修作家)として受け入れるとともに、世界各国および国内の著名な陶芸家をゲスト・アーティスト(招聘作家)として招聘し、互いに芸術的刺激を受けながら創作活動ができる環境を提供する。

また、「創作研修館オープン・スタジオ」を強化し、国内外のアーティストとまちなかの陶芸作家との交流の機会を増やすことで、信楽焼の振興およびAIR事業の情報発信に努める。

さらに、国内外の類似機関との連携を強化し、文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」補助金を活用して陶芸家の派遣と受入の取組を継続実施していくとともに、国内のレジデンス機関との連携を深め、専門的人材を育成するための研究会の開催により、各レジデンス機関の課題解決、連携強化等の議論を進め、情報共有の機会を拡大するためのトークショーを開催する。

ウ 子どもやきもの交流事業

世界にひとつの宝物づくり実行委員会と連携し、陶芸の森の特性を生かした、やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を「つつっこプログラム」として提供し、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や将来にわたる陶芸の森ファンの獲得を目指す。

年々、本事業への参加校は増加していることから、学校への出張授業や児童・生徒が来園して作陶する来園プログラムを継続し、さらに美術館事業として内容を吟味しながら、新規プログラムの企画を進めていく。

(4) 企画事業

展覧会関連商品、オリジナル商品、陶芸関係書籍を販売する。インターネットの活用により、商品の提供や販売の促進に努める。

収 支 予 算 書

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	3	3	-	
事業収益	245,389	237,334	8,055	
受取補助金等	6,200	3,000	3,200	
雑収益	1,733	1,593	140	
経常収益計	253,325	241,930	11,395	
(2) 経常費用				
事業費	255,608	237,310	18,298	
管理費	4,417	4,320	97	
経常費用計	260,025	241,630	18,395	
(うち人件費)	104,930	98,788	6,142	
評価損益等調整前当期経常増減額	6,700	300	7,000	
評価損益等計	-	-	-	
当期経常増減額	6,700	300	7,000	
税引前当期一般正味財産増減額	6,700	300	7,000	
法人税、住民税及び事業税	2,000	2,300	300	
当期一般正味財産増減額	8,700	2,000	6,700	
一般正味財産期首残高	141,632	143,632	2,000	
一般正味財産期末残高	132,932	141,632	8,700	
指定正味財産増減の部				
受取寄付金	100	100	-	
当期指定正味財産増減額	100	100	-	
指定正味財産期首残高	31,034	30,934	100	
指定正味財産期末残高	31,134	31,034	100	
正味財産期末残高	164,066	172,666	8,600	

収 支 予 算 書 内 訳 表

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
一般正味財産増減の部					
1 経 常 増 減 の 部					
(1) 経 常 収 益					
基本財産運用益	2	-	1	-	3
事業収益	214,793	30,596	-	-	245,389
受取補助金等	6,200	-	-	-	6,200
雑 収 益	-	1,723	10	-	1,733
経常収益計	220,995	32,319	11	-	253,325
(2) 経 常 費 用					
事業費用	235,582	20,026	-	-	255,608
管理費用	-	-	4,417	-	4,417
経常費用計	235,582	20,026	4,417	-	260,025
(うち人件費)	100,310	2,251	2,369	-	104,930
評価損益等調整前当期経 常増減額	14,587	12,293	4,406	-	6,700
評 価 損 益 等 計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	14,587	12,293	4,406	-	6,700
他会計振替額	5,973	5,973	-	-	-
税引前当期一般正味財産 増減額	8,614	6,320	4,406	-	6,700
法人税、住民税及び事業 税	-	2,000	-	-	2,000
当期一般正味財産増減額	8,614	4,320	4,406	-	8,700
一般正味財産期首残高	151,093	28,078	37,539	-	141,632
一般正味財産期末残高	142,479	32,398	41,945	-	132,932
指定正味財産増減の部					
受 取 寄 付 金	100	-	-	-	100
当期指定正味財産増減額	100	-	-	-	100
指定正味財産期首残高	16,034	-	15,000	-	31,034
指定正味財産期末残高	16,134	-	15,000	-	31,134
正味財産期末残高	158,613	32,398	26,945	-	164,066

資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

1 資金調達の見込みについて

なし

2 設備投資の見込みについて

なし

令和元年度事業報告

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

1 事業概要

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また陶芸館や創作研修館、信楽産業展示館の3つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として積極的な事業の展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

令和元年度は、県および甲賀市から第3期指定管理の4年目として、中期経営計画（第 期）に基づき、県、甲賀市と連携して引き続き施設の適切な運営管理に努めた。また、アーティスト・イン・レジデンス（以下「AIR」という。）事業においては、文化庁の補助金を得て、海外のレジデンス機関との作家の相互派遣や国内のレジデンス機関と連携した研究会の開催など、人的な交流を推進した。さらに、陶芸の森25周年記念事業を機に改修したまちなか交流拠点「F U J I K I」を地域連携拠点として活用し、レジデンスアーティストの展覧会をはじめ、運営委員会を通じたスペースの貸出等を行うことで、地域の活性化につなげる取組を実施した。

また、連続テレビ小説「スカーレット」の放映にあわせ、女性陶芸家の作品展示や写真展、対話の森でのトークショーを実施することなどにより、陶芸の森への誘客やまちなか散策の一助とし、信楽焼や信楽地域の魅力を多くの方々に発信した。

2 事業実績

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

太陽の広場や星の広場などで人々が自由に憩い楽しめるよう公園や施設を安全かつ清潔に保ち、芝と植栽の管理に努め、入園者に快適な空間とサービスを提供した。令和元年度の入園者数は、448,557人であった。

また、本県の観光拠点として陶芸の森を広くアピールし、誘客促進に努めた。

ア 公園の魅力の向上

(ア) 陶芸作品の野外展示

作品の保全に努め、新たに1作品を設置するなど、誰もが緑豊かな自然の中に点在する作品の魅力を再認識できるよう取り組んだ。

(イ) 公園の魅力発信

泉の広場周辺には7基の薪窯があり、平成25年度に設置した窯を利用した「しがらき学ノススメ」を開講し、講座のバリエーションを増やし、幅広いテーマを取り上げた。また、公園利用者には生きた薪窯を見てもらい、陶芸の森らしい園内散策のポイントとした。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

(ア) しがらき学ノススメ（実施回数15回、参加者数 247人）

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるよう体験講座を開催した。また、地元の陶芸家を講師に招き、伝統的な登り窯で焼成を行う講座を開催した。

(イ) イベントの開催・誘致

やきものをテーマにした展示即売会等を開催し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、陶芸に関する交流の場を提供した。

信楽作家市の開催

- 令和元年5月2日(木・祝)～5月5日(日・祝) 入園者数34,179人
野外音楽&フリーマーケットイベント「S I V E L W A R S」の誘致
令和元年8月11日(日) 入園者数 2,961人
セラミック・アート・マーケット(県内陶芸家による展示即売会)の開催
令和元年9月21日(土)～9月23日(月・祝) 入園者数18,246人
しがらき森のクラフトフェスタ(女性陶芸家を中心とした展示即売会)の開催
令和元年11月16日(土)～11月17日(日) 入園者数13,224人

(2) 地元陶器産業の振興に関する事業

信楽焼陶器産業との連携を強化し、信楽焼の伝統技術を将来に継承するための人材育成事業、デザイン活性化事業、さらに信楽産業展示館での展示をもって信楽焼陶器産業の振興に努めた。

ア 信楽焼の伝統技術の継承

信楽高等学校の生徒を対象に、各学年に応じ、学校での授業とは異なる視点に立った授業を行った。信楽焼の産業製品である陶製の椅子への絵付けのほか、野焼き体験や登り窯焼成実習を行った。

イ デザインコンペ

陶芸の森30周年を記念して陶芸館ミュージアムショップに設置する「カプセルトイ」で販売することを目的に作品公募を行い、すぐれた作品に賞を授与した。

応募総数 70点

ウ 信楽産業展示館の管理運営事業

信楽焼産業の振興と市民の文化向上に資するよう陶芸の森の設置目的と調和させながら、信楽産業展示館の運営および施設利用の活性化に努めた。また平成30年度のデザイン活性化事業で試作した加飾デザイン作品の展示を行った。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

- (ア) 特別企画「陶の花 FLOWERS」展/細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展
平成31年4月1日(月)～令和元年6月9日(日) 入館者数 7,208人(平成30年度からの継続事業)
本展では、「花」を入り口にして、様々な時代とシーンから作品87点を通じて多彩な陶の表現の世界を探った。春の花咲くシーズンに合わせて開催することにより、取材誘致や集客増をはかり、また地元信楽のまちなかギャラリーとの連携イベントを開催した。

細川正廣コレクションは、大津市在住の細川正廣氏が「滋賀の地で生み出されたやきものの歴史と素晴らしさを後世にまで伝えたい」という思いから10年間をかけて滋賀県立陶芸の森に寄贈された滋賀ゆかりの古陶磁コレクションである。本展は寄贈数が100点となったことを記念して開催した。

(イ) 特別企画「交流と実験 - 新時代の<やきもの>をめざして -」展

令和元年6月18日(火)～9月6日(金) 入館者数 4,552人

陶芸の森では国際的な協力関係を活用した交換プログラムを展開し、海外レジデンス機関に作家を送り出している。異国で彼らは何に関心をもち、どんな成果を得たのか。その足跡を作品と言葉を通して紹介した。レジデンス作家が信楽で制作した作品も交え、現代の多様な“やきもの”を展望した。

(ウ) 特別展「北大路魯山人 古典復興 - 現代陶芸をひらく」展

令和元年9月14日(土)～12月1日(日) 入館者数17,004人

北大路魯山人の没後60年にあたり、昭和陶芸における古典復興をテーマとして昭和陶芸の巨匠と古陶磁

の名品を展示した。本展は千葉市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館（愛知県）と当館の3館による共同企画展として開催した。これにより充実した内容の展覧会となり、連日多くの陶芸ファンが来館した。

(I) 特別展「リサ・ラーソン - 創作と出会いをめぐる旅」展

令和2年3月25日（水）～3月31日（火） 入館者数 1,747人（令和2年度への継続事業）

リサ・ラーソンは、北欧の陶芸デザインで魅力的な動物作品で幅広い人気を得ており、本展では、彼女のデザインの源となったアメリカ前衛陶芸のバイオニアであるピーター・ヴォーコスや日本の濱田庄司、メキシコやアジアの民族芸術などを組み合わせて紹介した。

また、3月5日より信楽高原鐵道と連携し、同展のラッピング列車と共通チケットを先駆けて販売し、集客を図った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、当初予定していた3月21日から遅れての開催となったが、多数の来館があり、関連グッズの販売も好調なスタートを切った。

(II) 陶芸館ギャラリー企画

陶芸館のギャラリースペースを活用し、子どもやきもの交流事業で制作した作品や、AIR事業でゲスト・アーティスト（招聘作家）が滞在中に制作した作品の展覧会等を開催した。

「陶芸館・新収蔵の逸品展」

平成31年4月1日（月）～4月14日（日） 入館者数 2,310人

AIR企画展「大石早矢香 - Binary - 」

平成31年4月20日（土）～令和元年6月9日（日） 入館者数11,593人

特別企画「交流と実験展」 - 第二会場「田中哲也 - HIBIKI - 展」

令和元年6月18日（火）～7月7日（日） 入館者数 1,784人

「子どもたちの土の造形展」

令和元年7月13日（土）～8月25日（日） 入館者数 4,782人

「Shigaraki x Photography - 今ここに生きる。多彩な信楽の風景から - 」 / 作品展示「巧妙に炎を操る
神山清子 土と炎がつくる景～信楽の薪窯に挑んだ女流作家」

令和2年3月25日（水）～3月31日（火） 入館者数 3,983人

イ 創作事業

AIR事業として、国内外から将来性のある若手作家をスタジオ・アーティスト（研修作家）として受け入れるとともに、世界各国および国内の著名な陶芸家をゲスト・アーティスト（招聘作家）として招聘し、互いに芸術的刺激を受けながら創作活動ができる環境を提供した。また、滞在作家による制作見学会や講演会などを積極的に開催することにより、地元の若手作家や信楽焼陶器業界との交流を促進した。令和元年度末で、55か国、1,350人の陶芸家、美術家らを受け入れた。

(ア) スタジオ・アーティスト 受入者数59人（日本13人、海外46人）

(イ) ゲスト・アーティスト 受入者数9人（日本6人、海外3人）

(ウ) 講演会、制作見学会の開催 9回 参加者数 189人

(E) AIR展の開催（甲賀市信楽町内・創作研修館ギャラリーほか）

28回 出展者数 23人（日本7人、海外16人）

(II) 国内外のレジデンス機関等との連携

「海外レジデンス機関との交換プログラム」の活用等により、海外の2つのレジデンス機関と提携し、計5人の作家を相互に派遣、受入れした。

また、文化庁の補助事業として研究会を開催し、AIRについてのケース・スタディおよび参加した各機関の間で課題解決や評価について議論を深めた。

研究会の開催 2回 出席者 90人

ウ 子どもやきもの交流事業

世界にひとつの宝物づくり実行委員会と連携し、陶芸の森の特性を生かした、やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を「つっこプログラム」として提供し、将来にわたる陶芸の森ファンの獲得に努めた。

(ア) 出張事業 (実施回数 110回、参加者数 6,477人)

学校の総合的な学習の時間における授業の一環として、地元陶芸家などが学校に出向き、子どもたちに本物の陶芸に触れる機会を提供した。

(イ) 来園プログラム (実施回数10回、参加者数 990人)

展覧会や野外展示作品の鑑賞のほか、陶芸家との対話や制作現場の見学、陶芸の森の穴窯や登り窯の見学など、信楽焼の伝統や進化し続ける現代陶芸を体感できる機会を提供した。

(ウ) ねんどと遊ぶ (実施回数 4回、参加者数 205人)

信楽陶芸作家協会のメンバーが講師となり、休日に来園した親子が気軽に楽しく参加できる事業を展開した。

(エ) 世界にひとつの宝物づくり事業 (実施回数 102回、参加者数 2,948人)

世界にひとつの宝物づくり実行委員会に参画し、地元の陶芸家やボランティアと連携して、子どもや障がい者に「土」という素材を用いてものを作ることの喜びや感動を体感できる創作体験プログラムを提供した。

(4) 企画事業

ミュージアムショップを運営し、展覧会関連商品、オリジナル商品、陶芸関係書籍を販売した。またインターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努めた。

販売数 8,812品

(5) 信楽焼おもてなし発信プロジェクト (実施回数 5回、来場者数17,925人)

信楽を舞台とした女性陶芸家を主人公に描かれるNHK連続テレビ小説「スカーレット」を機に、信楽焼を代表する女性陶芸家の一人である神山清子氏の作品などを通し、信楽焼の魅力を多くの方々にご紹介するため、写真展等を開催した。

正味財産増減計算書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,000	3,000	-
特定資産運用益	6,724	6,859	135
事業収益	246,627,761	236,700,091	9,927,670
受取補助金等	1,500,000	3,000,000	1,500,000
雑収益	1,825,591	1,079,961	745,630
経常収益計	249,963,076	240,789,911	9,173,165
(2) 経常費用			
事業費	243,104,106	233,909,996	9,194,110
管理費	3,964,795	3,836,525	128,270
経常費用計	247,068,901	237,746,521	9,322,380
(うち人件費)	98,401,467	93,713,352	4,688,115
評価損益等調整前当期経常増減額	2,894,175	3,043,390	149,215
評価損益等計	-	-	-
当期経常増減額	2,894,175	3,043,390	149,215
税引前当期一般正味財産増減額	2,894,175	3,043,390	149,215
法人税、住民税及び事業税	1,712,200	1,613,600	98,600
当期一般正味財産増減額	1,181,975	1,429,790	247,815
一般正味財産期首残高	175,110,826	173,681,036	1,429,790
一般正味財産期末残高	176,292,801	175,110,826	1,181,975
指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	6	6	-
受取寄付金	100,000	-	100,000
当期指定正味財産増減額	100,006	6	100,000
指定正味財産期首残高	30,883,165	30,883,159	6
指定正味財産期末残高	30,983,171	30,883,165	100,006
正味財産期末残高	207,275,972	205,993,991	1,281,981

正味財産増減計算書内訳表

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	1,500	-	1,500	-	3,000
特定資産運用益	-	-	6,724	-	6,724
事業収益	212,042,169	34,585,592	-	-	246,627,761
受取補助金等	1,500,000	-	-	-	1,500,000
雑収益	-	1,825,080	511	-	1,825,591
経常収益計	213,543,669	36,410,672	8,735	-	249,963,076
(2) 経常費用					
事業費	220,884,852	22,219,254	-	-	243,104,106
管理費	-	-	3,964,795	-	3,964,795
経常費用計	220,884,852	22,219,254	3,964,795	-	247,068,901
(うち人件費)	94,176,645	2,099,242	2,125,580	-	98,401,467
評価損益等調整前当期経常増減額	7,341,183	14,191,418	3,956,060	-	2,894,175
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	7,341,183	14,191,418	3,956,060	-	2,894,175
他会計振替額	6,914,522	6,914,522	-	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	426,661	7,276,896	3,956,060	-	2,894,175
法人税、住民税及び事業税	-	1,712,200	-	-	1,712,200
当期一般正味財産増減額	426,661	5,564,696	3,956,060	-	1,181,975
一般正味財産期首残高	164,442,759	37,680,322	27,012,255	-	175,110,826
一般正味財産期末残高	164,016,098	43,245,018	30,968,315	-	176,292,801
指定正味財産増減の部					
特定資産運用益	6	-	-	-	6
受取寄付金	100,000	-	-	-	100,000
当期指定正味財産増減額	100,006	-	-	-	100,006
指定正味財産期首残高	15,883,165	-	15,000,000	-	30,883,165
指定正味財産期末残高	15,983,171	-	15,000,000	-	30,983,171
正味財産期末残高	179,999,269	43,245,018	15,968,315	-	207,275,972

貸 借 対 照 表

令和 2 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 預 金	25,307,299	24,281,006	1,026,293
未 収 金	5,996,526	4,158,075	1,838,451
貯 蔵 品 (販 売 品)	1,462,142	1,606,367	144,225
流 動 資 産 合 計	32,765,967	30,045,448	2,720,519
2 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
基 本 財 産 引 当 資 産	30,000,000	30,000,000	-
基 本 財 産 合 計	30,000,000	30,000,000	-
(2) 特 定 資 産			
退 職 給 付 引 当 資 産	70,224,521	64,965,147	5,259,374
売 店 改 修 積 立 資 産	1,400,000	1,400,000	-
資 産 購 入 積 立 資 産	4,743,402	5,169,354	425,952
記 念 事 業 等 積 立 資 産	4,000,000	4,000,000	-
やきもの振興基金積立資産	983,171	883,165	100,006
特 定 資 産 合 計	81,351,094	76,417,666	4,933,428
(3) そ の 他 固 定 資 産			
車 両 運 搬 具	539,322	1	539,321
什 器 備 品	395,077	508,446	113,369
電 話 加 入 権	12,000	12,000	-
陶 芸 作 品	152,577,000	152,577,000	-
そ の 他 固 定 資 産 合 計	153,523,399	153,097,447	425,952
固 定 資 産 合 計	264,874,493	259,515,113	5,359,380
資 産 合 計	297,640,460	289,560,561	8,079,899
負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
未 払 金	14,942,767	14,885,423	57,344
未 払 法 人 税 等	1,712,200	1,613,600	98,600
未 払 消 費 税 等	3,485,000	2,102,400	1,382,600
流 動 負 債 合 計	20,139,967	18,601,423	1,538,544
2 固 定 負 債			
退 職 給 付 引 当 金	70,224,521	64,965,147	5,259,374
固 定 負 債 合 計	70,224,521	64,965,147	5,259,374
負 債 合 計	90,364,488	83,566,570	6,797,918

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
正味財産の部			
1 指定正味財産			
県 補 助 金	25,000,000	25,000,000	-
市 補 助 金	5,000,000	5,000,000	-
寄 付 金	983,171	883,165	100,006
指定正味財産合計	30,983,171	30,883,165	100,006
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(-)
(うち特定資産への充当額)	(983,171)	(883,165)	(100,006)
2 一般正味財産	176,292,801	175,110,826	1,181,975
(うち特定資産への充当額)	(9,460,611)	(9,886,563)	(425,952)
正味財産合計	207,275,972	205,993,991	1,281,981
負債及び正味財産合計	297,640,460	289,560,561	8,079,899